

令和4年度 普及活動成果集



5年ぶりに田植えが行われた朝倉市黒川地区の復旧農地

福岡県朝倉農林事務所
朝倉普及指導センター

はじめに

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の初発から3年目となりましたが、オミクロン株による爆発的な感染拡大がありました。また、ロシアによるウクライナ侵攻や急激な円安など国際情勢の影響を受け、燃油・肥料・飼料等の資材価格が高騰しました。加えて、気象面では7月の戻り梅雨、8月の大雨や、9月の2度にわたる台風接近などがあり、農業を取り巻く環境は厳しい一年となりました。

そのような状況下で計画的な活動ができない部分もありましたが、「農家の皆様に寄り添う」、「マスクの下は笑顔で！」を意識しながら活動してまいりました。

本冊子は、そのような令和4年度の活動の成果やトピックスをとりまとめたものです。すべてを網羅することはできませんが、一定の結果が得られたものや特徴的な現場の動きを掲載しています。今後の営農の参考になれば幸いです。

当センターの最も重要な課題として関係機関と連携して取り組んでいる「平成29年7月九州北部豪雨災害からの復興」では、中山間地域の農地の復旧工事が進み、徐々に作付けが再開できるようになってきています。今後はこれらの復旧農地を有効に活用して地域農業の復興に向け、地域の農業者とともに営農ビジョンの作成・実践を加速化することが重要であると考えています。

また、東峰村では被災したJR日田彦山線が、令和5年夏にバス高速輸送システム（BRT方式）で開通されることとなっています。これを農業振興にどのように活用できるか検討が望まれます。

さらに、高齢化による農業従事者の減少が進む中、農業DXに見られる技術革新の動きも農業経営の課題解決の方法の一つとして、種々のものが開発されてきています。これらの中から高品質・高収量や省力化などの課題解決に活かせるよう技術を見出し、導入・普及につなげていくことが大切です。

今後、当センターの普及活動においては、その目標と方法を常に検証しながら、効率的かつ効果的な活動となるよう進めてまいります。

農業士や女性農村アドバイザー、生産部会役員、地域リーダーの皆様をはじめ関係機関が一体となって、地域の課題解決を図っていきたいと考えておりますので、今後とも皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和5年3月

福岡県朝倉農林事務所朝倉普及指導センター長 真鍋 泰之

目次

1 普及活動の成果

- (1) 復旧から復興へ朝倉地域農業の再生 1
- (2) 若手農業者支援を核とした筑前町農業の活性化 3
- (3) 朝倉地域を担う経営体の育成 5
- (4) 力強い水田農業担い手の育成 6
- (5) 冬春なすの生産性向上及び省力技術の導入 7
- (6) 博多万能ねぎの産地振興 8
- (7) 省力的な露地花き推進による切花産地の振興 9
- (8) カキ「秋王」の収量確保による産地活性化 10
- (9) 持続する酪農経営の基盤強化 11

2 トピックス（注目の活動・技術・表彰紹介）

- (1) 新規就農者育成の取り組み 12
- (2) 水稻新品種「恵つくし」の導入に向けて 12
- (3) ICT活用技術向上研修会を開催 13
- (4) 花き経営におけるスマホ等ITツール活用研修会を開催 13
- (5) ナシ新品種「玉水」の導入、産地化に向けた取り組み 14
- (6) 第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会「種牛の部」県代表として初出品！ . . . 15
- (7) 令和4年度福岡県麦作共励会において古賀義友氏が優良賞を受賞 16
- (8) 福岡県アスパラガス生産振興共励会において森部博幸氏が最優秀賞を受賞 . . . 16

3 参考資料

- (1) 令和4年の気象概況および生産概況 17
- (2) 令和4年度主な展示ほの概要 20
- (3) 令和4年度普及指導センター活動情報一覧 21
- (4) 普及指導センターの活動体制 23

1 普及活動の成果

1 復旧から復興へ朝倉地域農業の再生

実施期間：令和3年度～令和5年度

朝倉地域は平成29年7月九州北部豪雨災害により甚大な被害を受けました。発災後5年が経過し、河川沿いでは一部の農地で復旧工事が完了し、ようやく営農が再開されました。

普及指導センターは、朝倉市において、被災地区（河川沿い・果樹園地）の将来の姿（営農ビジョン）を描き、実践するための支援や地域農業をリードする複合経営体の育成に取り組みました。

東峰村においては、新たな農産物導入や特産品の認定を促すとともに、持続的に農業振興できるような地域づくりの支援に取り組みました。

対象の概況

朝倉市		(R3年度)	東峰村		(R3年度)
中山間地域		うち区画整理型復旧農地	支援対象	対象数	
旧甘木市高木村、 旧朝倉町、旧杷木町		9河川19地区 198ha	モデル集落	2地区	
複合経営取組数		23件	道の駅小石原出荷組合	175名	
			つづみの里出荷者	212名	
			契約コショウ出荷者	34名	
			加工用ユズ出荷者	54名	

活動の内容

(1)朝倉市農業の復興

黒川地区では、「黒川地区の農業(未来)を考える会」において、耕作者のいない復旧農地を守る組織設立に向けた合意形成を支援しました。松末地区では、コミュニティ協議会営農検討部会「チームますえ」の営農ビジョン作成に向けた協議を支援しました。果樹園が主体の平榎、中宮野、政所地区では、営農意向調査結果を基に営農ビジョンの作成（園地マップづくり）や実践を支援しました。カキ園地を対象に、補助事業を活用した荒廃園地対策の推進や園地調査を行いました。

また、復旧農地での営農再開にあたり、水稻新品種「恵つくし」の栽培試験や果樹園地の排水性調査等を実施しました。

(2)朝倉市複合経営体の育成

関係機関と連携して、補助事業を活用した複合経営の取り組みを支援しました。また、複合経営に取り組む農家に経営指導や技術指導を行いました。

(3)東峰村農業の復興

関係機関と連携して、特産品の認定、新たな農産物の導入や定着、6次化商品の開発を支援しました。栗松地区では条件の異なる小地区単位での協議を柱に、地域活性化計画の策定を支援しました。また、昨年度に地域活性化計画を策定した岩屋地区の計画達成に向けて支援しました。

成 果

(1)朝倉市農業の復興

○営農ビジョンの作成

平榎、中宮野の2地区で営農意向調査により、営農ビジョン(園地マップ)が作成されました。

○営農ビジョンの達成

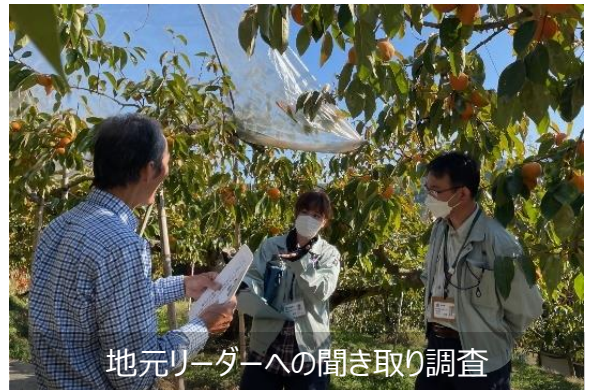
R3年度に営農ビジョンを作成した黒川、政所の2地区で営農ビジョンが実践されました。

黒川地区では、耕作者がいない復旧農地の保全管理を担う組織「黒川の農地を守る会」が設立されました。

政所地区では、一部の園地流動化が実現し、荒廃園対策実施について合意形成されました。

○カキ荒廃園地の改善対策

R2～R3年度の中宮野地区につづき、恵蘇宿、穂坂の2地区で伐採事業が実施されました。



地元リーダーへの聞き取り調査

(2)朝倉市複合経営体の育成

九州北部豪雨被災産地復興加速化支援事業を活用して、復旧農地で新たにブドウ2件、スモモ1件が導入され、同事業による複合経営の取り組みは26件となりました。



復興加速化支援事業により
復旧農地に導入されたスモモ施設

(3)東峰村農業の復興

○特産品の認定

認定制度の理解協力が進み、新たに既存加工品3品が認定され、認定数は23品目となりました。

○地域活性化計画の策定

座談会や関係者との協議をすすめ、昨年度の岩屋地区に続いて栗松地区でも地域活性化計画が策定されました。



地域活性化計画の策定に向けた座談会

今後の取り組み

朝倉市農業の復興に向けて、関係機関と連携して以下に取り組みます。黒川地区、政所地区では、営農ビジョンの実践をさらにもう一歩進める取り組みを支援します。平榎地区、中宮野地区では、今年度作成した営農ビジョンを基に園地流動化など営農ビジョンの実践を支援します。松末地区、塚原地区では、営農ビジョンの作成支援を継続します。また、複合経営に取り組む農家に経営指導・技術指導を継続します。

東峰村農業の復興に向けて、認定された特産品の村内での販売促進に加え、村外へも販売促進を図ることで、特産品開発を推進します。また、地域活性化計画の実践に向けた支援を行います。

2 若手農業者支援を核とした筑前町農業の活性化

実施期間：令和3年度～令和5年度

筑前町は、米・麦・大豆を中心に野菜や果樹の生産に加え、農産物直売所への出荷や観光農業など福岡都市圏に隣接する地の利を活かした農業を展開しています。

近年、若手農業者への世代交代が進んでいますが、果樹(ナシ)では生産者の高齢化により、園地の荒廃が懸念されています。

そこで、筑前町農業の活性化を図るために、地域の核となる若手農業者の経営確立に向けた経営計画の策定・実践および城山ナシ団地の生産者の意向を反映した園地マップ作成やビジョン(将来像)形成を支援しました。

観光農業については、イチゴ観光農園の連絡会を開催し、農園間の連携とイベント開催に向け検討しました。

対象の概況

(R4年度)

支援対象	対象数
筑前町若手農業者	57戸
城山ナシ団地生産者	21戸
イチゴ観光農園	4農園

※筑前町若手農業者：

20代から40代の農家

※城山ナシ団地生産者：

城山地区でナシを生産する農家

※イチゴ観光農園：

筑前町内の観光イチゴ園

活動の内容

(1)若手農業者の経営確立

若手農業者57戸のカウンセリング結果をもとに「インボイス制度について」と「農業経営者として必要なお金の知識」の研修会を行い、経営意欲の向上を図りました。また、関係機関と連携して、経営発展意欲の高い農業者および地域の担い手として育成すべき農業者を重点支援対象として選定し、作成意欲のある11戸の経営計画策定を支援しました。

経営計画を策定した農業者には、関係機関で進捗状況を共有して実践支援を行いました。

(2)城山ナシ団地の維持・振興

関係機関と協力し、団地のナシ生産者全員にカウンセリングを行いました。

園地マップの作成にあたり、ナシ生産者へ趣旨説明とあわせて同意書提出の協力を呼びかけました。

作成した園地マップをもとに、団地の将来像について個別ヒアリングを行いました。

(3)観光農業の振興

各イチゴ観光農園を巡回し、意見交換を行うとともに観光農園連絡会を開催し、4農園が連携したPR活動とイベントの開催について検討しました。



研修会の様子

成果

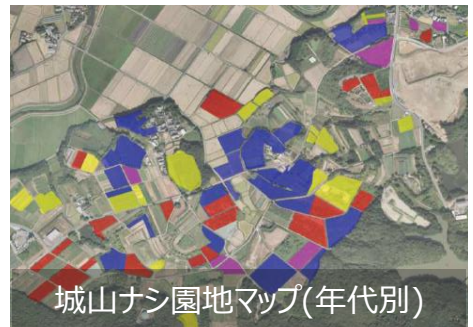
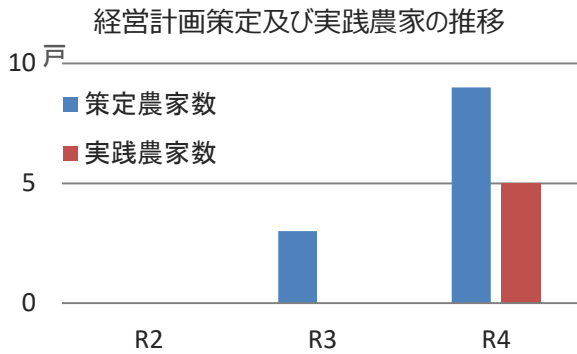
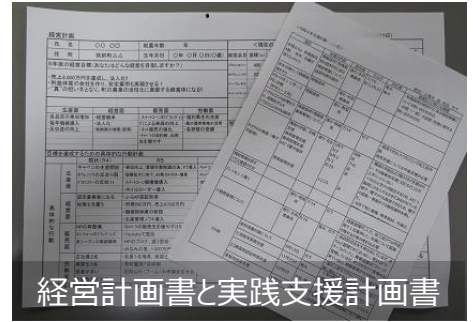
(1)若手農業者の経営確立

○経営計画の策定

R3年度末時点で作成途中だった2戸の経営計画が完成しました。また、重点支援対象と位置づけた11戸のうち4戸が計画を完成させ、R4年度までに9戸が経営計画を策定しました。

○経営計画の実践

R3年およびR4年11月までに経営計画を策定した5戸は、関係機関が随時支援を行い、計画が実践できました。



(2)城山ナシ団地の維持・振興

ナシ団地生産者へのカウンセリング結果をもとに、生産者の園地を年代別に色分けをする等、団地の現状と将来を考えるための園地マップが完成しました。

(3)観光農業の振興

観光農園連絡会を通して、農園間が連携するメリットを確認しました。4園が連携したPR活動の取組として、道の駅筑前みなみの里に設置しているリーフレットコーナーを改善しました。



今後の取り組み

関係機関と連携し、経営計画策定を希望する若手農業者には引き続き支援を行います。また、計画を策定した農業者に対しては計画実現のための実践支援を行います。さらに、若手農業者全員を対象に経営に関する研修会を開催し、経営意欲を高めます。

城山ナシ団地については、団地生産者のカウンセリングを基に、生産者の意向を反映した未来予想図を作成し、団地の維持・振興について検討していきます。

観光農園については、関係機関と連携し連絡会の継続を図ります。

3 地域振興課 地域係

朝倉地域を担う経営体の育成

実施期間：令和2年度～令和4年度

朝倉地域の農業振興のためには、核となる経営体の育成が必要です。

そこで、県域の経営セミナー「ふくおか農業経営アカデミー発展・確立コース」の修了生を対象に、個別のフォローアップや研修会の開催による経営計画実践に向けた支援を行いました。

また、企業的経営志向経営体に対し、個々の課題に応じたコンサルタントの派遣など経営発展のための支援を行いました。

対象の概況

(R4年度)

「ふくおか農業経営アカデミー」修了生	10名
企業的経営志向経営体	6名

活動の内容

(1)「ふくおか農業経営アカデミー」修了生の経営確立・発展

修了生に対し毎年カウンセリングを行い、経営ビジョン達成に向けた行動目標を設定、経営分析や技術指導などの支援を行いました。

また、先進農家での現地研修やマーケティング講座、SNS活用講座などを開催しました。

(2)企業的経営体の育成

各経営体の課題に応じ、経営分析や税理士、社会保険労務士等の専門家派遣、経営継承に向けた支援を行いました。

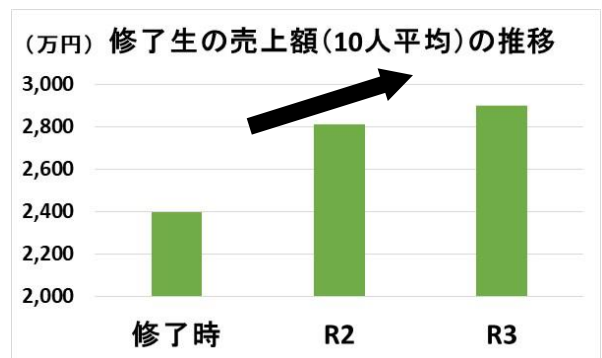


農家のためのマーケティング講座

成果

(1)「ふくおか農業経営アカデミー」修了生の経営確立・発展

修了生10名全員が修了3年目の行動目標を達成しました。その結果、10名中7名の売上額が増加し、経営発展につながりました。



(2)企業的経営体の育成

対象者6名中4名が所得1,000万円を達成しました。

また、販売・労務管理システムの導入や就業規則の整備、後継者へのスムーズな経営継承など個別の課題が解決しました。

今後の取り組み

担い手の経営改善については引き続き次期の普及指導計画に位置付け、栽培技術と経営の両面から支援を行います。

また、朝倉地域担い手・産地育成協議会の活動として、各種研修会の開催など、関係機関と連携のもと実施します。

力強い水田農業担い手の育成

実施期間：令和2年度～令和4年度

朝倉地域の水田農業の振興を図るためには、経営力を持続的に強化できる経営体、地域の水田を継続的に守ることができる集落営農法人を育成する必要があります。

そこで、経営体に対しスマート農業技術の導入支援による経営力強化、集落営農法人に対し課題を明らかにするための面談や長期的な経営計画策定による経営改善支援を行いました。

対象の概況

	(R4年度)
スマート農業技術導入志向経営体	28経営体 (内組織13)
集落営農法人	12法人

活動の内容

(1)水田農業の生産コスト低減

関係機関と連携し、スマート農業技術導入の推進を図りました。

- ・スマート農業研究会の開催 5回/3年間
- ・実証モデル経営体の設置 4経営体/3年間

(2)集落営農法人の経営改善

集落営農法人に対して経営面談を行い、長期計画作成とその実践を支援しました。

- ・経営改善面談の実施 12法人
- ・長期経営計画作成の支援 3法人



スマート機器（ドローン）の活用講習会

成果

(1)水田農業の生産コスト低減

ドローン、営農管理ソフト、収量コンバイン等のスマート農業技術の導入により作業効率が向上し、生産コストが低減されました。

- ・スマート農業技術による生産コスト低減経営体数 (R1:0経営体 → R4:3経営体)
- ・スマート農業技術導入経営体数(延べ件数) (R1:10件 → R4:27件)

(2)集落営農法人の経営改善

経営改善支援により、集落内の若いオペレータの確保、大豆播種の新技術の定着、法人活動の拠点となる倉庫新設の決定など、組織の経営に必要な行動につながりました。

- ・長期計画作成法人数 (R1:0法人 → R4:3法人)
- ・目標達成法人数 (R1:0法人 → R4:1法人)

法人〇〇ファームの目標	経営スローガン:「集落内のほ場を継続させるために」	
【問題点への対応】	【具体的な活動】	
1 役員・オペレータの後継者を確保	・条件整備 → 法人の経営を「見える化」	→ 労働条件の明確化検討
・集落内の人材探索	→ R5年度までにオペレータを増加させる	→ R3年度に〇〇氏登録 R4年度に〇〇氏登録
2 機械装備の更新計画設定	・5条コンバインの更新計画 → 役員会で協議検討。	→ 準備金の計画的運用。
・ブームスプレーヤの更新	防除についての省力を検討	コンバイン更新R6年度予定。
・ドローンの導入検討	若いOPの意向を確認	ブームスプレーヤ更新実施
3 今後15年の農地維持	・法人経営の安定のため 品目拡大を検討	→ 役員会、OP班で検討 → 経費増を避ける必要。
・各品種構成を検討	補助事業の活用検討	大豆は不可。麦作の拡大を検討

法人経営方針設定の例

今後の取り組み

今後も関係機関と連携し、集落営農法人や個別大規模経営体といった朝倉地域の水田農業を担う経営体の経営力強化を支援します。

冬春なすの生産性向上及び省力技術の導入

実施期間：令和2年度～令和4年度

朝倉地域のなす産地では、令和元年から多収が期待される品種「PC筑陽」へ全面的に切り換えました。このため品種に適した栽培技術の確立が求められました。そこで、生産者ごとの栽培管理を把握するとともに、光合成促進装置の普及を推進し、栽培管理の適正化により、収量向上を図りました。また、高齢化に伴い負担が大きくなる防除作業や追肥作業を省力化するために、天敵の導入や基肥一発施肥技術等の省力技術の普及を図りました。

対象の概況

JA筑前あさくら冬春なす部会（R4年度）

生産者数（戸）	11
栽培面積（坪）	6,870

活動の内容

(1)生産性向上

光合成促進装置を活用した増収技術の実証ほを設置しました。また定期的に生育調査を行い、生育状況を見える化した「バランスシート」を生産者ごとに作成して栽培管理の適正化に活用しました。

(2)省力技術導入

天敵利用技術の習得を図るため、放飼した天敵の定着状況と害虫の発生状況について調査しました。

また、基肥一発施肥技術の展示ほを設置して、技術の普及を図りました。

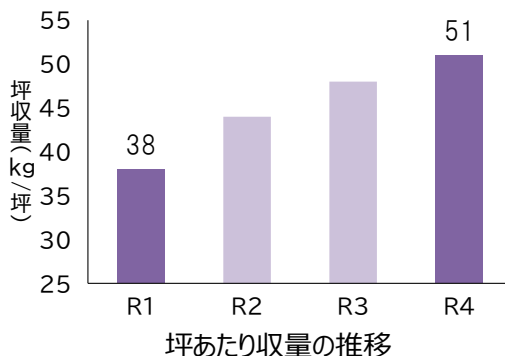


現地検討会の様子

成果

(1)生産性向上

光合成促進装置の導入は進みませんでした。が、「バランスシート」を活用した栽培管理の適正化により部会の平均収量は年々増加し、坪あたり収量は51kgに達しました。



(2)省力技術導入

部会員全員が天敵を導入し、利用技術を習得したことで、防除の省力化が図られました。

基肥一発施肥技術については、作業面では一定の評価を得ましたが、肥料価格高騰により導入を見送る生産者が多く、約半数の生産者への普及にとどまりました。

- ・天敵導入農家数
(R1:10戸 → R4:11戸)
- ・基肥一発施肥導入農家数
(R1: 3戸 → R4: 5戸)

今後の取り組み

引き続き生産性向上や、天敵や省力施肥等の省力技術を用いた安定生産を推進します。

博多万能ねぎの産地振興

実施期間：令和2年度～令和4年度

博多万能ねぎ部会では、農家の高齢化により生産量が減少してきましたが、近年は一戸あたり作付面積の増加によって維持しています。しかしながら、調製作業労働力が不足しており、労働力確保が課題となっていました。そこで、パッケージセンター(以下PC)利用推進や、外国人技能実習制度や農福連携による労働力確保を推進しました。

また、夏季の高温や害虫多発によって生産量が減少していたため、品種試験など高温対策試験を実施し、害虫発生状況の発信により適期防除を呼び掛けました。

対象の概況

JA筑前あさくら博多万能ねぎ部会

	生産者数 (戸)	出荷数量 (t)
R1年度	95	2,407
R2年度	91	2,542
R3年度	89	2,449

活動の内容

(1)調製労働力の確保

福祉事業所とJAの協議の場を設定し、調製作業マニュアルを作成するなど、PCにおける農福連携の取組を支援しました。

また、経営相談会や雇用研修会を開催し、調製労働力の確保に向け、外国人実習生等の導入や新たな労働力確保ツール(おてつたび等)の活用を推進しました。

(2)夏季の生産量向上

夏季に品種試験や排水対策や被覆フィルムの実証を行いました。また、粘着トラップを用いて害虫の発生状況を把握し、全戸に情報発信を行いました。



福祉事業所による調製作業

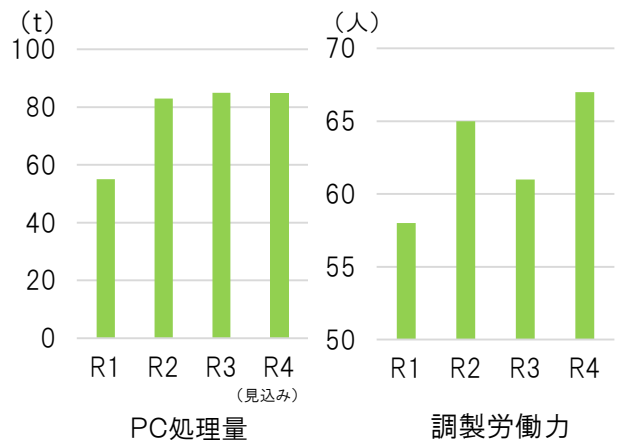
成果

(1)調製労働力の確保

農福連携によりPCでの調製労働力確保に取り組みましたが、就業条件等の課題が残りました。

令和2年からは作業効率が向上しPC処理量は増加しましたが、利用希望者の処理量150tを充足できませんでした。

また個別経営体での外国人技能実習生、特定技能生による調製労働力の確保は、コロナ禍の影響はあったものの順調に進みました。



(2)夏季の生産性向上

高温耐性品種への誘導やかん水方法の提案および適期防除の啓発により、夏季出荷量は増加しました。

・8～10月の出荷量(R1:508t→R4:562t)

今後の取り組み

労働力確保について引き続き対策を検討するとともに、夏季の生産安定のための技術支援を行います。

省力的な露地花き推進による切花産地の振興

実施期間：令和2年度～令和4年度

朝倉地域は、キク、ダイアンサス、シンテッポウユリ等の切花産地ですが、高齢化等により産地規模が縮小しています。そこで、労力が比較的少ない切り枝の作付けを推進するため、既存品目（ユーカーリ）以外の品目を試作し、地域に適した品目の導入を検討するとともに、新規作付者を募りました。また、導入が比較的容易なシンテッポウユリでは、新たな花き生産者を開拓しつつ、安定販売に向けて共販を提案し、産地振興を図りました。

対象の概況

(R4年度)

対象	戸数
JA筑前あさくら切花部会	21
切花作付け希望者 (女性農業者・定年退職者等)	

活動の内容

(1)切り枝の作付面積拡大

新規品目選定検討会の開催するとともに、市場で需要が高い4品目を試作しました。また、栽培技術検討会を開催し、栽培マニュアル・栽培指標を作成しました。



栽培技術検討会(切り枝)

(2)新たな花き生産者の開拓

シンテッポウユリと切り枝において、新規生産希望者向けの説明会を開催するとともに、広報誌等の活用や個別相談等を実施して新たな花き生産者の掘り起こしを図りました。

(3)シンテッポウユリの共販出荷体制の確立

安定販売に向けて共販を提案し、JA・部会役員・生産者との協議を重ねて、合意形成を図りました。

成果

(1)切り枝の作付面積拡大

新規品目の試作、栽培技術検討会により、切り枝の作付面積が拡大しました。

作付面積	R1	→	R4
切り枝全体 (うちユーカーリ以外)	75a (17a)		111a (61a)

(2)新たな花き生産者の開拓

各種取組により、部会への新規加入者を毎年1名以上確保出来ました。

年度	R2	R3	R4
新規加入者	2名	1名	1名

(3)シンテッポウユリの共販出荷体制の確立

令和4年度に共販を実現することが出来ました（共販数量8,020本、平均単価112円）。



共販出荷体制確立のための検討会

今後の取り組み

今後は、シンテッポウユリは引き続き共販を推進するとともに、新規作付け者に対して技術支援を行います。切り枝については、新規品目の出荷が今後増えることから、品目別の出荷指針の作成や販売対策について支援していきます。

カキ「秋王」の収量確保による産地活性化

実施期間：令和3年度～令和5年度

福岡県が育成したカキ「秋王」は、大果で食味に優れる品種です。カキ生産者の経営安定と産地活性化を担う品種として普及・推進を行ってきましたが、着果が不安定なことや果実外観の低下による生産者の栽培意欲減退が問題となっています。そこで、「秋王」の収量確保による栽培意欲の向上を図ることで、産地活性化を目指しました。

対象の概況

JA筑前あさくら かき部会「秋王」生産者
(R2年度)

農家数 (戸)	93 (※うち重点対象農家16)
栽培面積 (ha)	9.5
出荷量 (t) ※加工品含む	20.8

※重点対象農家：「秋王」栽培に意欲的で優良事例となりうる生産者

活動の内容

(1)「秋王」の収量確保

生産者の技術向上のため、「秋王」の安定生産に向けた管理講習会や巡回指導を行い、栽培に関する定期的な情報提供を行いました。また、秋王研究会に対し、会員相互の意見交換の場となるように活動を支援しました。

(2)「秋王」安定生産技術の確立と普及

重点対象農家に対し、安定生産に向けた個別課題の把握と解決策の提案を行いました。また、安定生産につながる管理方法をより明確にするため、優良園や試験展示ほの調査を行いました。

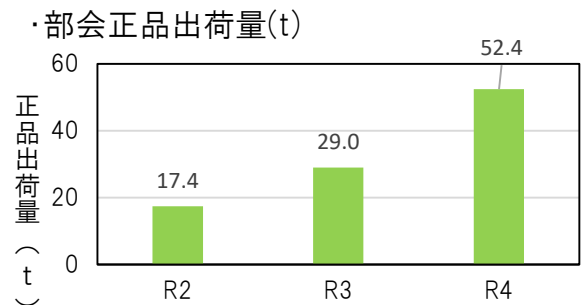


秋王管理講習会

成果

(1)「秋王」の収量確保

講習会や巡回指導、情報提供により着果及び外観向上対策の実施や適期管理が行われたことで、正品出荷量や単収が大きく増加しました。



部会正品出荷量の推移

- ・重点対象農家の平均正品単収(kg/10a)
(R2:422 → R4:991)
- ・重点対象農家の平均正品果率(%)
(R2: 81 → R4: 81)

(2)「秋王」安定生産技術の確立と普及

着果及び外観向上対策の推進と個別課題の共有により、新たに対策を実施した重点対象農家が増加しました。

- ・着果対策実施率(%)
(R2:69 → R4:81)
- ・外観向上対策実施率(%)
(R2:25 → R4:81)

※重点対象農家を対象

今後の取り組み

優良園調査や試験展示ほより得られた結果を産地全体にフィードバックし、「秋王」の収量を確保することで産地の活性化を目指します。

持続する酪農経営の基盤強化

実施期間：令和2年度～令和4年度

高齢化や後継者不足により、酪農家戸数の減少が予想されます。

そのため、カウンセリングを通じて酪農家とともに中長期計画を作成した上で、経営目標の達成を支援しました。また、スマート畜産の推進を図るため、新技術導入後の検証や導入効果の情報提供を行いました。

対象の概況

(R3.2月時点)

	管内の状況	うち重点
農家戸数	72	24
経産牛頭数	3,600	1,419
未経産牛頭数	1,459	483

活動の内容

(1) 地域酪農担い手支援

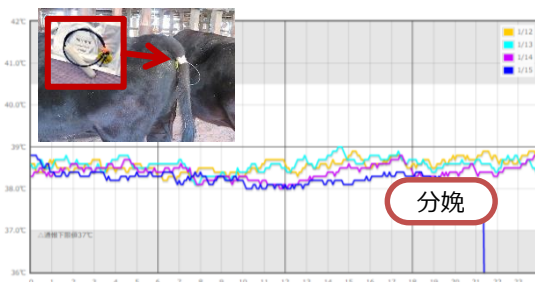
- ・ カウンセリング
- ・ 中長期計画作成支援
- ・ 計画に基づく経営戦略達成支援



カウンセリング風景

(2) スマート畜産の推進

- ・ 新技術実態調査・導入後フォロー
- ・ スマート畜産研修会
- ・ 情報提供・新規導入支援



分娩監視装置で測定された体温の推移

成果

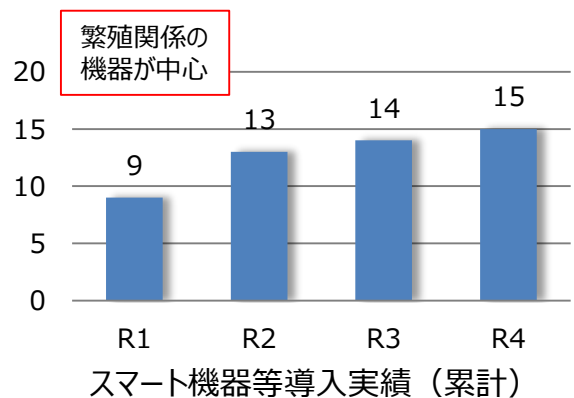
(1) 地域酪農担い手支援

- ・ 19戸が中長期計画を作成
- ・ 15戸が短期計画(2年後)を達成

(2) スマート畜産の推進

- ・ スマート機器等の導入件数 15件

※スマート機器：発情発見装置、分娩監視カメラ、哺乳ロボット、搾乳ロボットなど、ICTやロボット技術を活用し、省力・高品質生産を実現する機器



今後の取り組み

引き続き中長期計画の達成に向けた支援を関係機関と連携して行います。また、新技術が日々開発されているスマート機器についても、導入支援を行います。

2 トピックス(注目の活動・技術・表彰農家の紹介)

1 新規就農者育成の取り組み

地域振興課 地域係

朝倉地域担い手・産地育成協議会は就農準備のための研修機関として、新規就農者の育成に取り組んでいます。

この研修機関において当センターは協議会構成員として、各品目の栽培基礎や経営計画作成に関する講座を実施し、研修生のスムーズな経営開始を支援しています。

令和4年度は6名の研修生(イチゴ3名、アスパラガス2名、青ネギ1名)が栽培技術や農業経営について学んでおり、就農に向けての準備は順調です。

今後も、関係機関と連携して、地域農業の核となる担い手の確保・育成に取り組めます。



2 水稲新品種「恵つくし」の導入に向けて

地域振興課 水田農業係

福岡県農林業総合試験場が開発した水稲新品種「恵つくし」は、いもち病に強く、高品質な中山間地域向けの極早生品種です。これまで作付けされていた「つくしろまん」の代替品種として普及が期待されています。令和5年産からの作付けに向けて生育特性を把握するため、朝倉市黒川の災害復旧田と東峰村で栽培試験を行いました。

いずれの試験ほ場においても「恵つくし」の生育は良好で、従来の品種と比べていもち病に強いことが確認できました。また、収量性も高く、品質や食味も良好でした。災害復旧田における水稲の生産性や栽培上の留意点が把握でき、新品種「恵つくし」の導入による中山間地域での安定生産が期待されます。



3 ICT活用技術向上研修会を開催

園芸課 野菜係

近年、朝倉地域ではイチゴ、ナス、トマト等の施設果菜類の一部で、ICT機器である環境測定装置が導入されていますが、入手した測定データを十分に活用できていませんでした。そこで、関係機関で構成する朝倉地域担い手・産地育成協議会野菜部会と連携し、ICTを導入している農家やICTに関心のある農家を対象に、ICT活用方法に関する研修会を開催しました。

JAみなみ筑後瀬高なす部会の井上忠信氏を講師に招き、ハウス環境データと生育データを活用して、収量向上につなげた実績について講演いただきました。自身が所属する研究会では、環境測定や生育調査を農家個人が行い、データを持ち寄り関連性を分析しながら相互研鑽を図っているとのことで、参加者は驚きを持って聞き入っていました。研修会の反響は大きかったようで、参加者のうち3名が新たにICT機器を導入することになりました。

今後も、研修会や品目別の検討会を通して、ICTを活用した収量向上への取り組みを支援していく予定です。



研修会の様子

4 花き経営におけるスマホ等ITツールの活用研修会を開催

園芸課 花き係

スマホ等のITツールは、この数年で多種多様な方面に進出し、新たな役割を得て、我々の生活をより便利に変化させています。農業においても、販売管理・労務管理・生産管理などの分野で、スマホ等ITツールが活用されつつあります。

そこで、スマホを用いた花の直接取引を実現させた(株)CAVINの副社長犬塚清一郎氏、スポット雇用アプリ「daywork」を労務管理に活用されている葉菜葉菜の代表古賀賢治氏を講師に招いて研修会を開催しました。また、普及センターからは生産管理に活用できる記帳アプリやスマホで利用できる環境モニタリング装置などを紹介しました。生産者からの熱心な質問に対し、講師の方々から実例を交えた具体的な説明やアドバイスをいただきました。

今後も、当センターでは、花き生産者の経営力強化に向けて、意欲ある生産者に対して必要な情報提供および支援を継続していきます。



(株)CAVINのオンライン講演



5 ナシ新品種「玉水」の導入、産地化に向けた取り組み

園芸課 果樹係

福岡県農林業総合試験場で育種されたナシの新品種「玉水(ぎょくすい)」の出荷が令和4年度産から始まり、県全体で2.3t、朝倉地域では1.6tが出荷されました。

JA筑前あさくら梨部会では、関東産地との出荷時期の競合による単価の低迷をうけて、産地の維持・活性化を図るために、令和元年から「玉水」の導入を推進しています。令和4年現在、梨部会員の約85%にあたる43戸で、約3,800本の苗木が導入されており、県内最大の「玉水」の産地となっています。

普及指導センターでは、「玉水」の導入に向け、試食会の開催等を通じて、新品種に対する理解を深めてきました。令和元年に苗木の導入が始まってからは、実証ほを設置し、生産者や関係機関と情報共有を図りながら、生育特性の把握や苗木の養成、結実管理等の技術確立に努めています。

今後も、講習会等を通じて「玉水」の生産拡大を支援し、他県産地に負けない、朝倉地域のナシ産地の振興を図っていきます。



収穫期の果実（左）と摘果された果実の箱詰め（右）

6 第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会 「種牛の部」県代表として初出品！

久留米普及指導センター 果樹畜産課 畜産係

5年に1度開催される「和牛のオリンピック」として第12回全国和牛能力共進会が、令和4年10月6～11日の間、鹿児島県霧島市において開催されました。

福岡県は、前回第11回宮城大会(H29)において初めて「肉牛の部」に出品しており、それを契機に「繁殖部門でも出品しよう！」という声が高まり、関係者の尽力により今回大会で「種牛の部」に初出品することとなりました。

取り組みの概要

本県の最終予選会は令和4年8月6日に開催され、月齢により若雌「第2区」、「第3区」の2つに区分され、月齢に応じた発育・和牛雌牛としての品の良さ・全体的なバランスに着目して県代表が1頭ずつ選出されました。久留米地域和牛改良組合からは全候補牛17頭のうち11頭を出品し、うち「第2区」で久留米市の大石昌史氏所有「ちえこ」号が県代表牛として選ばれ、ここから本番へ向けての険しい道がスタートしました。

初めての経験であるため、本番の審査会場の様子・情報は全く無く、会場では「ちえこ」号と大石昌史氏の「二人だけ」の戦いとなります。その戦いに挑むために、これまで同じように全共出品を目指していた久留米・朝倉地区の牛飼い仲間が集まり、二人を強力にサポートする「チーム体制」が出来ました。「本番の審査会場では、恥ずかしくない「立ち振る舞い」をすること」を目標とし、静止して長時間立ち姿勢をきれいにする「つなぎ運動」や、指示通りに動く歩行訓練や、シャンプー・毛刈りなど、みんなで毎日「ちえこ」号と向き合い、調教や手入れを重ね本番に向けて準備していきました。

会場入りしたのちも、落ち着いてリラックスしていた「ちえこ」号と大石氏。「第2区」の審査時点でも堂々たる落ち着き・振る舞いを見せてくれました。結果は、前には進めず入賞とはなりませんでしたが、県代表として出品し、出品審査会場に行った者しか得られない貴重な経験を得ることが出来ました。

今後の取り組み

次回第13回大会は、令和9年に北海道で開催予定です。今後も繁殖雌牛牛群の改良のベースとなる、“キレイでキラリと光る”後継牛の創出・育成に努め、日頃の管理の一環として調教等の技術を仲間たちで競い合い、牛との良い関係を築いていきます。

目標は、「一歩前へ！さらに前へ！」



7 令和4年度福岡県麦作共励会において 古賀善友氏（筑前町）が優良賞を受賞

令和4年度福岡県麦作共励会の農家の部において、筑前町の古賀善友氏が優良賞を受賞されました。

古賀氏は、筑前町の中でも有数の大規模土地利用型農業経営体であり、地域の重要な担い手です。また、近隣農家と協力した自宅周辺への農地集約や、ブームスプレーヤの少量散布ノズルによる省力化など、効率の良い麦作を行っています。

さらに、古賀氏は夜須地区カントリーエレベーター運営委員や両筑土地改良区の地区総代など多数の役を務められ、夜須地区の水田農業においてリーダー的存在であることなどが評価されました。



古賀氏の表彰式の様子

8 福岡県アスパラガス生産振興共励会において 森部博幸氏（朝倉市）が最優秀賞を受賞

令和4年度福岡県アスパラガス生産振興共励会において、朝倉市の森部博幸氏が反当収量最優秀賞を受賞されました。

森部氏は平成29年から朝倉市でアスパラガスを栽培しており、堆肥投入による土づくり、夏季の高温対策のためのハウス換気、定期的な病害虫防除といった基本技術を励行されてきました。毎日アスパラガスの観察を怠らず、先を見据えた栽培管理を徹底した結果、共励会史上最高の5.3t/10aという成績を収められました。

今回の共励会では、県北の部で朝倉市の柳原保氏が反当収量優秀賞を、団体の部でJA筑前あさくらアスパラガス部会が総収量伸び率優秀部会賞を受賞しました。朝倉地域で3部門受賞となり、アスパラガス部会は大いに沸いています。



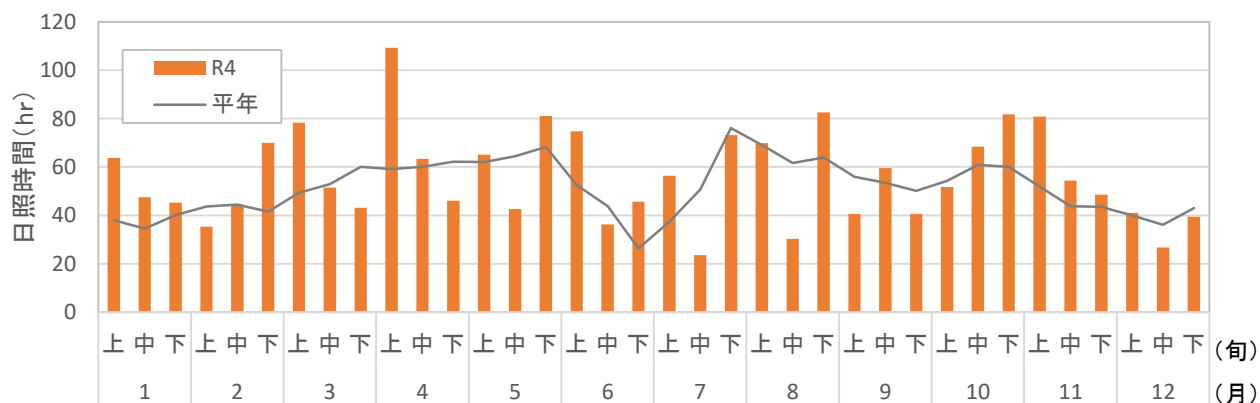
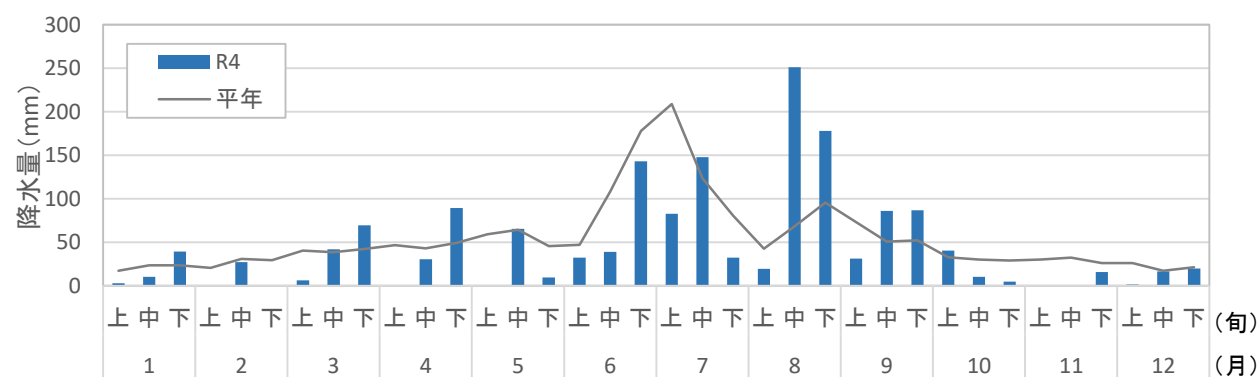
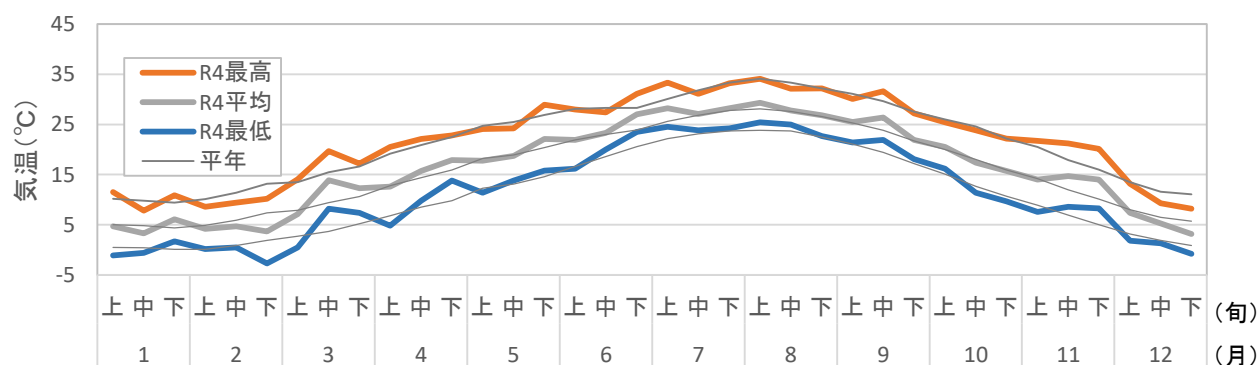
受賞された左からアスパラガス副部会長、森部氏、柳原氏

3 参考資料

(1) 令和4年の気象概況および生産概況

【年間概況】令和4年の管内の気象は、年平均気温は16.4℃(平年15.9℃)、年間降水量は1,636.5mm(平年比83.7%)、日照時間は2,012.9時間(平年比108.5%)であった(データ:アメダス(朝倉))。

【月別概況】1月の日照時間は平年比139%であった。2月は日照時間は平年比116%と長かったが、平均気温は平年より1.7℃低かった。3月の平均気温は平年より1.7℃高かった。4月は26日明け方に風が強くなり、最大瞬間風速20.8mを記録した。6月11日頃に梅雨入り(平年より7日遅)した。梅雨入り後は曇天続きで降水量は少なく(6月中旬～7月上旬の降水量:平年比53.5%)、6月下旬には梅雨明けしたかのような暑さとなった。このため、九州北部の梅雨明けは当初は6月28日頃とされたが、その後全国の梅雨明け時期は9月1日付で大幅修正され、九州北部の梅雨明けは7月11日頃に変更となった。7月18日から19日にかけて台風接近による大雨があり、24時間降水量110.5mmを記録した。8月盆以降は連日雨が続き、8月の降水量は平年比217%となった。9月6日に台風11号が、9月19日に台風14号が接近し、作物やハウス被覆資材等に被害をもたらした。10月上旬から11月下旬にかけては降水量が少なく(平年比40.3%)、11月の気温は平年より2.1℃高かった。



グラフは朝倉アメダスのデータを元に作成

水稻・麦・大豆

令和4年産の麦は、播種が順調に進み、出芽、初期生育は順調であったが、遅まきや深まきのほ場では分けつが少ない傾向となった。2月後半の急激な低温で、葉の枯死や黄化が見られたが、その後回復した。出穂期は平年より3日程度早くなった。成熟期は、大麦で平年より5日程度、小麦で平年より3日程度早くなった。収量は前年より少なかったものの、平年より多収で、品質も概ね良好であった。

水稻は、田植えの最盛期は6月23日頃であった。平坦地の一部地域では、用水不足で田植えが遅れた。7月中旬の寡照でやや徒長傾向となったが、以降はほぼ平年並みの生育であった。6月下旬以降にウンカ類の飛来が確認されたが、防除の徹底により被害はほとんどなかった。7月中旬の多雨寡照により、7月下旬から山麓部に葉いもちが発生し、一部では穂いもちの多発に至った。8月後半の大雨、9月の台風により、籾ずれやもみ枯細菌病、倒伏が発生した。出穂期は「夢つくし」で平年より3日程度早く、以降の品種も平年よりやや早い傾向であった。成熟期は平年並み～やや早く、収量は早生品種で平年並みであったが、中生品種以降では平年より低くなった。

大豆は、播種が7月12日～14日、7月22日～24日を中心に行われた。その後8月中下旬は定期的に大雨が降り、7月20日以降播種のほ場では湿害により生育量が不足した。9月の台風11号、14号により倒伏が発生し、14号通過後は葉焼病の発生が広がった。ハスモンヨウによる白変葉の発生は少なかったものの、ウワバ類による食害が多発した。粒の充実が悪く百粒重が軽くなり収量は平年より低くなった。

野菜

青ネギでは、6月下旬から7月上旬の高温により発芽ムラが発生し収穫量が減少したが、その他の時期は概ね順調な生育であった。9月の台風では若干の倒伏が見られたものの、生育への影響は軽微で収穫量は維持された。病害虫については、5月中旬から6月上旬にかけてアザミウマ類による被害が多かった。

令和3年産イチゴは、前年対比95%の収量となり、令和3年10月の高温による2番果房の分化遅れや令和4年3月高温多日照によるハダニ類多発が課題となった。

令和4年産は、ランナーの発生が順調で苗の切り離しは例年並みであった。育苗期は令和4年7月以降の高温により根傷みが散見された。花芽分化は、早期作型、普通作型ともにばらつきや遅れがみられ、定植後の活着については緩慢であった。その後の生育は順調に推移し、2番果房の花芽分化は例年に比べて早かったため、1～2番果房は連続した収穫となった。病害虫は、炭そ病が育苗期後半に多く発生し、ハダニ類が11月以降に多く見られた。

アスパラガスでは、2月の低温乾燥によって収穫は遅れ、春芽収量は少なくなった。また夏芽最盛期の6月下旬からは高温乾燥傾向が続き、草勢が低下したため品質が低下し、影響は8月まで続いたため夏芽収量は少なくなった。病害虫では、夏以降、ハダニ類、ハスモンヨウの発生が多く見られ、9月の台風通過後は斑点性病害の発生が増加した。

令和3年産のトマトは、令和3年10月中旬の定植以降、好天により順調な初期生育であった。令和4年1～2月の低温傾向で着色が遅れ、出荷量が少なかった。3月以降、気温の上昇とともに出荷量が増加したが、急激な生育増大により尻腐れ果が発生した。病害虫については、コナジラミ類は比較的少なく、黄化葉巻病の発生も同様に少なかった。また春先の好天により、灰色かび病の発生は少なかった。

令和3年産のナスは、令和3年9月上旬を中心に定植された。11月は日照が不足し、着果負担と重なったため、12月以降は樹勢が低下した。令和4年1月から2月にかけて低温であったが日照時間が長く、草勢は維持されたため、3月以降の好天で出荷量は増加した。収穫終盤はコナジラミ類の発生が散見され、一部で蔓延したほ場も見られた。

令和3年産のキュウリは、令和3年9月上旬から10月中旬にかけて定植された。11月は日照が不足したため側枝の伸長が遅く、例年よりも出荷量が減少した。令和4年1月以降は低温が続き、2月末まで冷え込んだが、3月に入り気温、日照時間が長く推移したため出荷量が増加した。一方、アザミウマ類およびコナジラミ類の発生も増加し、一部ほ場で樹勢の低下が見られた。

花 き

鉢物リンドウは、最終摘心が遅れた生産者では敬老の日以降の出荷が多かった。7月上旬から8月にかけて立枯病やダニ被害が、8月下旬以降は花腐病の発生が多かった。また、9月上旬の台風14号による強風の影響で、一部の生産者で出荷直前の鉢が倒れ、出荷量が激減した。

シンテップウユリは、4月上中旬の定植後、活着ならびに生育は概ね順調であった。梅雨時期の降水量が少なかったことから、葉枯病の発生はほとんど見られなかったが、水はけがよいほ場では水分不足となり、一部生育にばらつきが見られた。収穫開始は平年よりもやや早い7月中旬からであったが、全体としては概ね8月上旬に出荷できた。

花壇苗は、4月から6月にかけて降水量が少なく日照時間も長かったため、病害の発生が少なかった。定植前または定植後の幼苗期だったため、9月上旬の台風14号の影響は見られなかった。9月以降のヤガ類の発生も少なく、近年まれにみる病害虫被害の少ない年であった。ただし、11月の高温傾向により、出荷前のパンジーで病気が散見された。

果 樹

3月の気温が平年並みで推移したため、4月のナシ・モモ・スモモの開花盛期は、平年と同様の時期であった。また、開花期に晴天が多く、日中の気温が高かったため、結実は概ね良好であった。一方、晩霜で、ナシの花が枯死し結実に影響した。5月は降雨が少なく日照時間が十分であったことから、ブドウの着果は概ね良好だった。カキも、着らい数が多く、日照時間が確保されたことから生理落果が少なく、着果量は平年よりも多かった。

6月中旬～7月中旬は、降水量が平年より少なく晴天が続いたため、病害の発生が少なく、ナシやモモ、スモモの夏果実の品質は良好であった。一方、ナシや施設栽培のブドウ、イチジクでハダニ類の発生が散見された。

8月以降の高温乾燥で、ブドウの一部では着色遅れが生じ、イチジクでは、例年よりも小玉傾向となった。

9月以降も、少雨傾向であったため、カキは、目立った病害虫の発生も少なく、品質は良好であった。

(2) 令和4年度主な展示ほの概要

対象作物	課題名	市町村	展示ほの目的・概要
水稻	中山間地域向け水稻新品種「恵つくし」の朝倉地域における適応性の検討	朝倉市 東峰村	「つくしろまん」に替わる中山間地域向け新品種「恵つくし」の栽培試験を朝倉市黒川の災害復旧田および東峰村で実施した。「恵つくし」はいもち病に強く、収量性や品質も良好で普及性が高いと考えられた。
小麦	硬質小麦の穂揃い期施肥法の検討	筑前町	硬質小麦品種「ちくしW2号」のタンパク質含有率向上を目的に、「穂揃い期追肥時の尿素葉面散布の濃度」について検討した。高濃度区では麦の等級・収量を保った上で、硬質小麦の基準値であるタンパク質含有率12%以上を確保した。この結果は令和5年産の麦作暦に採用した。
キュウリ	全量基肥施肥技術の検討	筑前町	栽培期間が長期にわたる促成キュウリ栽培では、施肥作業に多くの労力を要するため、基肥一発施肥試験を実施した。施肥作業の時間は慣行より4割削減され、収量は同等以上であった。
イチゴ	新規イチゴ栽培者のICT機器活用による早期技術習得の実証	朝倉市	イチゴ新規栽培者の早期技術習得を目的としたICT機器(環境測定装置)導入の効果を実証した。高収量者と新規栽培者のハウス内環境を見える化し、共有したことで適切な温度管理が可能となり、新規栽培者の単収は部会平均を上回った。
花壇苗	花壇用苗物における超音波を用いたヤガ類防除技術の検討	朝倉市	花壇用苗物ではヤガ類の被害が多発することから、超音波防虫装置のヤガ類被害軽減効果を調査した。しかし、今年度はヤガ類の発生が少なかったことから、被害低減効果を明らかにすることは出来なかった。
ロシアンオリーブ	朝倉地域における切り枝ロシアンオリーブの商品性および日持ち性の検討	朝倉市	切り枝の新規推進品目「ロシアンオリーブ」について商品性および日持ち性を調査した。その結果、一般的な切り枝の相場よりも比較的高く、ユーカリの代用品やブライダルでの引き合いも高まっていることから商品性は高いと考えられた。また、鮮度保持剤を活用しなくても十分な日持ち性があることが確認できた。
ナシ	摘心処理時期の違いが果育成ナシ品種「玉水」の果実肥大及び短果枝発生に及ぼす影響	朝倉市	「玉水」では、短果枝に着生する果実の肥大が優れることが明らかとなっている。そのため、短果枝の安定確保に向け、摘心時期の違いが短果枝発生に及ぼす影響を調査した。その結果、満開90日後を目安に実施することで短果枝の発生割合が高くなることを確認した。しかし、4月の晩霜害が結実に影響している可能性があり、最適な短果枝の発生に適した摘心時期を明らかにするため、継続調査が必要である。

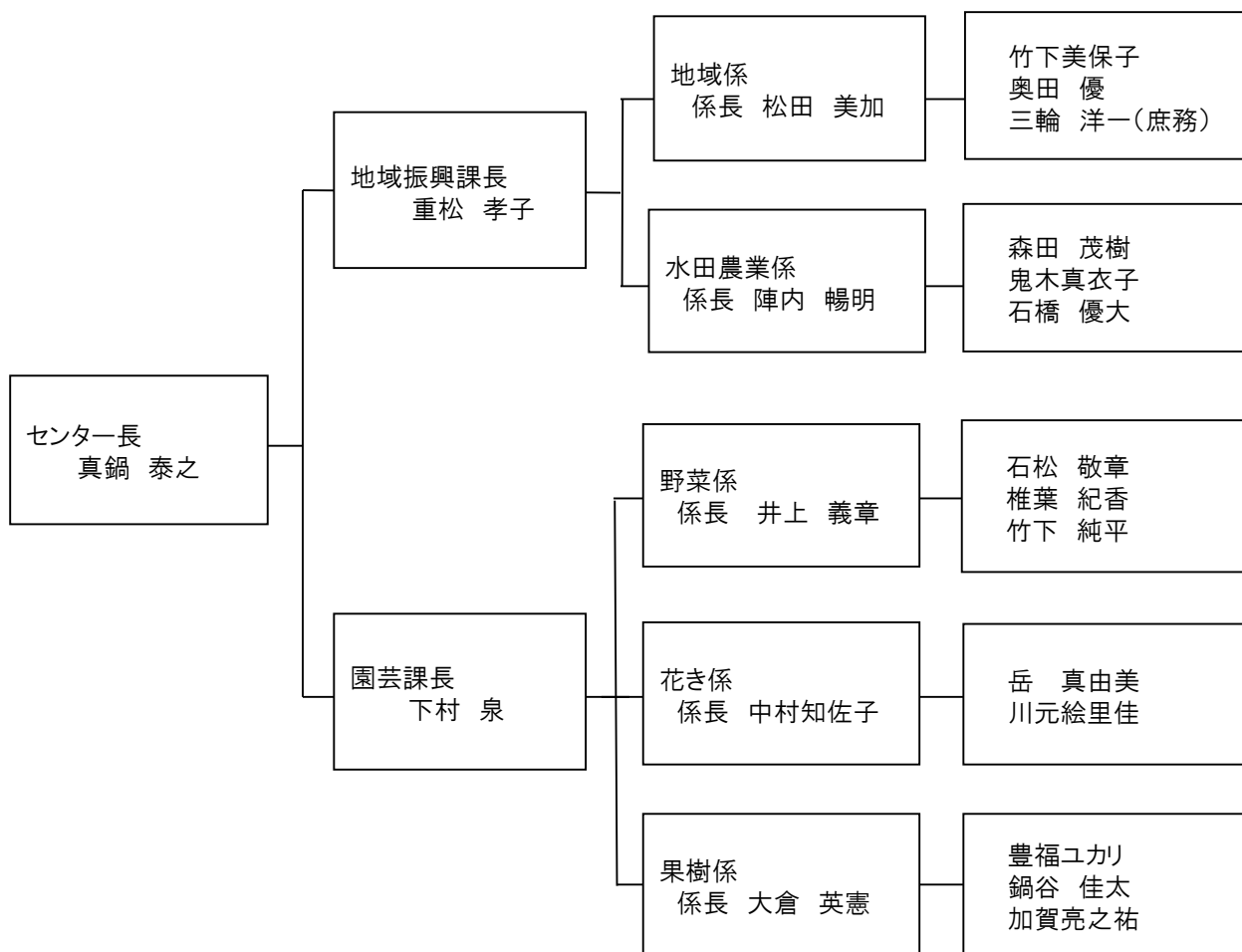
(3) 令和4年度普及指導センター活動情報一覧

令和4年度に普及指導センターがホームページなどで広く提供した情報です。

No.	タイトル	担当係等	発行月
1	新たな4Hクラブでさらなるあさくら地域農業の発展へ！ ～あさくら地域4Hクラブ連絡協議会設立総会を開催～	野菜係	6月
2	カキ「秋王」の安定生産を目指して！ ～秋王研究会の開催～	果樹係	6月
3	復旧から復興へ！被災した黒川流域に田園風景がかえってきた ～災害復旧農地での水稻栽培を支援する～	水田農業係	6月
4	未来ある朝倉地域での新規就農に向けて ～JA筑前あさくら新規就農センター令和3年度閉講式及び 令和4年度開講式開催～	地域係	6月
5	朝倉地域農村女性リーダー連絡協議会研修会を開催 ～新しい農業への関わり方について～	地域係	7月
6	花き生産者を対象とした研修会を開催 ～関係機関と力を合わせ、IPMおよびDX技術を推進～	花き係	7月
7	復旧から復興へ！「チームますえ」始動！ ～松末（ますえ）地域コミュニティ協議会営農検討部会発足～	水田農業係	7月
8	筑前町若手農業者研修会を開催 ～令和5年10月1日から始まる消費税のインボイス制度 について～	花き係	7月
9	これからの労働力確保ツールを知ろう！ ～朝倉地域農業経営発展研修会を開催～	地域係	8月
10	県育成ナン新品種「玉水（ぎよくすい）」の出荷開始 ～「玉水」が初めて市場に出荷される～	果樹係	8月
11	地域の財産を守り未来へつなぐ ～朝倉市黒川地区で災害復旧農地を守る組織を結成～	水田農業係	8月
12	集落の農地を守るために ～東峰村栗松地区で座談会を開催～	水田農業係	8月
13	暑さに負けず伸びゆくアスパラガス産地 ～アスパラガス部会が夏季現地検討会を開催～	野菜係	8月
14	シンテッポウユリ新規栽培説明会を開催 ～夏場の収入増に魅力的な品目です～	花き係	8月
15	イチゴ経営相談会を開催 ～肥料価格高騰に負けない産地を目指して～	野菜係	8月
16	安全な農産物加工品の出荷に向けて ～食品衛生法改正に関する説明会を開催～	地域係	9月

No.	タイトル	担当係等	発行月
17	優良事例を学び安定生産を目指す！ ～地域の秋王研修会を開催～	果樹係	9月
18	魅力ある地域づくりを目指して ～被災した中山間地域を対象に研修会を開催～	水田農業係	9月
19	中山間地域における法面の除草作業を省力化するために ～朝倉市黒川地区でラジコン草刈機の実演会を開催～	水田農業係	9月
20	敬老の日に贈りたい鉢物リンドウ ～管内のコミュニティセンター等公共施設での展示スタート～	花き係	9月
21	女性認定農業者育成研修会を開催 ～女性が働きやすい農園づくりin 朝倉 ユニバーサル農業の取組～	地域係	10月
22	筑前町イチゴの安定生産に向けて ～イチゴ定植後講習会を開催～	野菜係	10月
23	花を身近に感じてもらう体験を ～園児を対象に寄せ植え教室・フラワーアレンジメント教室 を開催～	花き係	11月
24	増えていく朝倉地域のキウイフルーツ ～新年の出荷を待つ果実たち～	果樹係	1月
25	若手農業者がプロジェクト活動から得たこと ～あさくら地域4 Hクラブ意見実績発表会の開催～	青年農業者 支援推進班	1月
26	花き経営におけるスマホ等ITツール活用研修会を開催	花き係	1月
27	新規就農者の早期経営確立に向けて ～「朝倉地域新規就農者のつどい」を開催～	地域係	2月
28	成長著しい朝倉地域のアスパラガス産地 ～令和4年度生産販売反省会・総会を開催～	野菜係	2月
29	仲間とのデータ共有はイチゴ生産技術向上の近道！ ～環境測定装置「はかる蔵」を活用した勉強会～	野菜係	2月
30	GAPの取組拡大に向けて ～JA筑前あさくら果樹GAP研究会が県GAP認証を更新～	果樹係	3月

(4) 普及指導センターの活動体制



福岡県行政資料	
分類番号 PA	所属コード 4703216
登録年度 04	登録番号 0001

福岡県朝倉農林事務所朝倉普及指導センター

〒838-0026 福岡県朝倉市柿原1110-2

TEL : 0946-22-2551

FAX : 0946-23-1452

HP : <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4705004/>

E-mail : asakura-dlc@pref.fukuoka.lg.jp